

ザンビア

「食糧安全保障向上のための食用作物多様化支援プロジェクト (FoDiS)」 技術協力プロジェクト (2006年10月～2011年10月)

ザンビアの人々はメイズ(とうもろこし)を主食としており、80%以上の農家が重要な作物としてメイズを生産しています。しかし、大半の農家は小規模経営であり、雨水に依存したメイズ栽培を行っているため、数年に一度発生する干ばつの度に、国家レベルの食料危機に陥ってしまいます。そこで、日本は干ばつをはじめとする気候変動の影響を緩和するために、メイズに依存しない食用作物栽培の多様化支援を推進しています。本プロジェクトでは、乾燥に強いキャッサバやサツマイモなど芋類の植え付け材や、日本がアフリカで普及を促進しているネリカ米という陸稲の種子を小規模農家に配布して栽培支援を行い、ザンビアの食糧安全保障に貢献しています。また、これらの種子の増殖や品種改良を担う研究機関の能力向上や、メイズ以外の主要作物が国内市場で流通するための仕組みづくりや加工技術の支援も併せて行っています。

* FoDiS: Food Crop Diversification Support Project for Environment of Food Security



収穫物のキャッサバを手にする農民。キャッサバは貴重なメイズ代替食料である(写真提供: JICA)